

概 要
<p>第 20 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：地域共生社会の実現に向けて ～宝塚福祉コミュニティプラザを、すべての人が集い交流し、 多様性を認め合う福祉の拠点に～</p>
<p>日時：令和 8 年 2 月 20 日（金） 午後 2 時～午後 4 時 場所：西谷会館 ホール 参加者：24 名 出席者： 森市長 健康福祉部安心ネットワーク推進担当－松本次長 健康福祉部基幹相談支援センター担当－坂元課長 健康福祉部地域福祉課－田辺課長</p>
<p>《市長のテーマ説明》</p> <p>1 趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売布東の町にある宝塚福祉コミュニティプラザ周辺を、地域福祉の拠点として充実させたいと考えている。 ・現在、3つの施設（ぶらざこむ 1、フレミラ宝塚、こむの事業所）があるが、さらに拠点が必要と感じている。 ・新しい施設が必要ではないかと思っているが、それを前提にするのではなく、宝塚市の福祉の拠点としてどんな機能が必要なのかを皆さんと一緒に考えたいと思っている。 ・現時点で完成した案があるわけではない。市役所として一定の方向性は持っているが、固めてからお示しするのではなく、皆さんの意見をいただきながら案をつくっていきたいと考えている。 <p>2 宝塚福祉コミュニティプラザの概要と経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該エリアは、阪神・淡路大震災後のボランティア活動の高まりを契機に、市民が財団を設立して整備され、昨年に、市、社会福祉協議会、NPO法人へ寄贈された。 ・現在は、社会福祉協議会がボランタリープラザを運営している「ぶらざこむ 1」、市の公共施設である大型児童館と老人福祉センターの複合施設「フレミラ宝塚」、認定 NPO 法人こむの事業所が就労支援事業所等を運営している「こむの事業所」の 3 施設に複数の機能が集まっている。 <p>3 拠点づくりの基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このエリアの基本コンセプトは、「すべての人にとって暮らしやすい社会を、市民の力でつくること」であり、この理念を継承していきたい。 ・今回の拠点づくりは、これまでの理念を継承し、発展させるため、不足する機能、必要な機能を強化するものである。 <p>4 地域福祉と地域共生社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉とは、年齢、性別、国籍、^{がい}障害の有無、経済状況などを問わず、地域で暮らすすべての人が安心して生活できるようにするしくみづくりである。 ・社会福祉法第 4 条で、地域福祉の主体は地域住民であると定義されており、市民一人ひ

とりが中心となる。

- ・地域共生社会とは、人や資源が世代や分野を超えてつながり、暮らしと生きがいを共につくる社会である。

5 地域福祉拠点に求められる主な機能

- ・地域課題の解決に向けた取組の推進。
- ・日常的なつながりを強化するための交流・ネットワークづくり。
- ・困りごとを抱える人への支援や相談体制の充実。

6 具体的な機能イメージ

- ・地域づくりを支援するための機能。例えば人材育成やネットワーク形成の場。
- ・相談支援につながる機能。例えば市だけでなく、市民や関係団体等による相談の場。
- ・住民参加を支援する機能。例えば誰もが参加しやすい環境づくりや活動の場。

7 売布東の町地域における福祉の拠点づくりへのご寄附と覚書

- ・寄付者との覚書では、社会的包摂の具現化と多様性を尊重する場とし、年齢や性別、国籍、障害の有無に限らず、子どもから高齢者まで、すべての人が集い交流できる場とし、ユニバーサルデザインに配慮することとした。
- ・また、覚書では市の責務として、宝塚福祉コミュニティプラザを「宝塚市の福祉の拠点」とし、機能の充実に努めるものとした。

8 今後の進め方と市民への呼びかけ

- ・これまでの対話では、障害者スポーツを一緒にできる場にしてはどうかという意見や、災害時の拠点にすべきではないかという意見、駄菓子屋のような気軽に集まれる機能があってもよいのではないかという若い世代の意見もあった。
- ・すべてを実現することは難しいかもしれないので、優先順位を考える必要があると考えている
- ・まだこれから検討するものであり、率直な意見を出してもらいたい。

《対話》

1 参加者【自助・共助・公助の整理と市民意識の転換について】

- ・自助・共助・公助の整理が十分にできていないのではないかと思う。
- ・公助は自治体の役割だが、市ができることには限界があると思う。しかし、「自分でできることは自分で」とは、なかなか行政からは言いにくいので、住民自身が「自分たちにできることは何か」を考える意識を持たなければ、なかなか変わっていかない。

➔ 市長

- ・公助には限界がある。
- ・福祉は自立支援が基本だと思う。何でも行政に頼ることが続くと、自分で生きていく力が弱まってしまう側面もあるのではないだろうか。できるだけ自分の力で生きていくことは、とても大切だと思う。
- ・高齢化が進み、お一人暮らしの方が増える中で、「これまで家族がしてくれていたことを市がすべて担う」というのは現実的ではない。
- ・阪神・淡路大震災の時に強く感じたのは、行政だけでなく、個人だけでなく、地域ので解決できたことが多くあったということだ。「ここまでは市ができること」「ここからは地域や個人の役割」その距離感を知っていただくことが大切だと感じている。

・一方で、本当は支援できる制度があるのに、知らずに孤立している方もいる。「市に相談していいんだ」「地域に声をかけてもいいんだ」そうした気づきを持っていただくことも重要だと思う。

2 参加者【地域包括支援体制の強化と、より細やかな地域ネットワークの必要性について】

- ・福祉拠点づくりが具体化しており、厚生労働省が求めている「包括的支援体制」の整備にもつながる取り組みではないかと感じている。
- ・宝塚市は7区域あるが、センター機能としての包括支援体制は整備されつつあると思うが、各地域単位での包括支援の協議会やネットワークは、まだ十分ではない。
- ・参加支援はとても重要だと思う。その前提として、情報伝達や情報交流の仕組みが必要ではないだろうか。掲示板など、分かりやすい情報発信の方法を充実させてほしい。
- ・市民が参加するためには交通支援も重要だ。高齢者にとって移動手段は参加の前提条件だと思う。交通費助成が縮小されると、社会参加の機会が減ってしまうのではないかと懸念している。

➡ 市長

- ・地域包括支援センターについては、福祉拠点との役割整理を考える必要があると思う。
- ・厚生労働省が求める体制整備は、しっかり進めていかなければならないが、課題の一つは、市民が「どんな支援が受けられるのか」を十分に知らないことではないかと思う。
- ・地域包括支援センターという名称と実際の機能が分かりにくい面もあるので、周知や整理は今後の課題だと感じている。
- ・高齢者への交通助成を縮小する判断は、財政上やむを得ない面があったが、生活に影響を受ける方がいることも理解している。
- ・宝塚は駅が近いという利点はあるが、すべての方が駅近に住んでいるわけではない。拠点を充実させるなら、アクセスの在り方も同時に考える必要があると思う。
- ・医療拠点や市役所、福祉拠点などをどう結ぶのか、市内全体の交通をどう設計するのかについて、包括的に見直す必要があると感じている。

3 参加者【西谷地区のバス廃止後の対応状況について】

- ・西谷地区の高齢化対策の一つとして、バス廃止後の対応がどう進んでいるのか。
- ・市役所で会議をされていると思うが、西谷地区に対してどのような方向性で検討が進んでいるのかを教えてほしい。住民アンケートも実施されていると思うが、その意見がどのように反映されているのか。
- ・既存のバス停を拠点とする方式なのか、電話予約で迎えに来てもらえる仕組みなのか、どういう形を想定しているのか、早めに知りたい。決まってからでは遅いので、西谷のバスがなくなった場合の対策を真剣に考えてほしいと思う。

➡ 市長

- ・現在、阪急バスが撤退することは決まっている。その代替手段について、複数の事業者から提案を受けており、それぞれ、費用やサービス内容を含めた提案が出されている。市が示した条件は満たしている状況である。例えば、通学利用への対応、一定の利便性の確保、これまでの財政支援の枠内で実施可能かどうか、といった条件を踏まえて精査

している。

- ・今後、事業者選定を進め、来年度下半期には実証実験を開始する予定である。これは単なるテストではなく、導入を前提とした実証実験になると考えている。
- ・途中経過をもっと共有してほしいという思いもあると思うが、契約や金銭に関わる交渉段階の内容は、公表できない部分がある。どの事業者が手を挙げているかも含め、手続き上公開できない点をご理解いただきたい。不安があることは承知しているが、現段階では手続きの進行を見守っていただきたいという状況である。

4 参加者【①社会起業家の相談窓口について】

- ・私は社会課題を解決する起業家（ソーシャルアントレプレナー）を目指して活動している。市役所に新しい部署ができるという話があったが、社会起業家についてどこに問い合わせればいいのか分かりにくいと感じている。
- ・商工会議所に相談しても「市役所に聞いてください」と言われることがあり、相談窓口が明確になるとありがたいと思う。
- ・今後、ワンストップの窓口のような形になるのだろうか、という点を確認したい。

➔ 市長

- ・新たに担当を明確化するのは、今回のプロジェクト推進のための体制整備である。
- ・社会課題解決型の起業については、福祉課題なら福祉部門、事業性が強ければ商工部門など、内容によって担当が異なる可能性がある。どの部署に相談しても、必要な部署につなぐ体制を整えつつある。「ここが近いかな」と思う窓口にまず相談してもらいたい。起業支援や補助金の観点では商工部門が近いかもしれない。

【②公務員の副業解禁と交通人材確保について】

- ・九州（例：鹿児島県、大分県）で、公務員が副業としてライドシェア運転手になる実証実験が行われたと聞いている。
- ・将来的に副業を解禁し、公共に役立つ仕事であれば兼業可能にすることで、退職後もドライバーとして地域交通を支える担い手を育てられるのではないかと思う。市として、そうした取り組みの可能性はあるか。

➔ 市長

- ・宝塚市では副業は一定可能だが、範囲には制限がある。ボランティアなど社会活動に参加している職員がいる。
- ・一方で、公務員は「24時間365日公に資する立場」という考え方もあり、どこまで認めるかは慎重な整理が必要である。
- ・宝塚市は、完全な過疎地のように「誰も担い手がない」状況ではない。バスについても、代替交通事業者として複数社が手を挙げている状況である。
- ・すでに二種免許などを持つ人材については、自治体職員だけでなく、消防・自衛隊経験者などにも存在している。
- ・ライドシェア制度も、商業ベースでない形など複数の仕組みがあるので、自治体職員が直接ドライバーになるというより、人材の活用、交通事業者との連携、出向・協力などの形が現実的だと考えている。

5 参加者【フレミラ宝塚の価値とインクルーシブな公共施設への期待について】

- ・私は子どもの頃からフレミラ宝塚が大好きで、よく通っていた。インクルージョンを掲げた公共施設は、あまり他にないように感じている。
- ・共生や多様性を認め合うという話があったが、ダンスもできる、勉強もできる、音楽も運動もできる、高齢者も子どももいる。そういう空間が本当に素敵だと思う。
- ・新しい施設も、障害や年齢で分けるのではなく、一人ひとりの趣味や好きなことが尊重される場所になったらいいなと思う。
- ・北海道の小清水（こしみず）町では「フェーズフリー」という考え方があり、庁舎を普段は住民が自由に使い、非常時にはそのまま防災拠点として活用しているそうだ。宝塚にも、そういうフェーズフリーの施設ができたらいいなと思う。

➔ 市長

- ・とても素敵なコンセプトだと思う。私たちも、どなたでも来られる場所、ハードルが低い場所を大切にしたいと思う。
- ・避難所についても、普段から使い慣れている場所であれば、非常時にも心理的なハードルが下がるのではないかなと思う。ただ、避難所として使うにはどんな設備や機能が必要なのか、これから具体的に検討していく段階だ。応援のコメントとして受け止めて、とてもありがたいと思う。

6 参加者【高齢化が進む地域での社会インフラ整備（ベンチ設置の提案）について】

- ・私の住むすみれが丘は坂が多い地域で、高齢化率がいよいよ30%になっている。
- ・地域の社会インフラをもっと充実させたいと思うが、市役所をお願いするだけでなく、地域でもできることはやりたいと思う。
- ・例えば歩道だが、諸外国では歩道の各所にベンチが設置されている。できれば、地域としてベンチを設置するなど、自分たちでできることは取り組みたいと思う。

➔ 市長

- ・確かに、買い物途中などで休憩できる場所があればいいというのは理解できる。具体的な場所の要望を挙げてもらえれば検討する。ただし、他にも多くの要望があるため、優先順位を考えることが必要になる。
- ・交通アクセスの話とも関連するが、今後は道路の使い方自体が変わってくる可能性がある。例えば、車やバスが小型化する可能性や交通の個別化が進む可能性がある。一方で、電動自転車、屋根付きの小型モビリティ、四輪の超小型車、シニアカーなど、多様な移動手段が道路を使うようになっている。
- ・これまでの「歩道＝歩行者中心」「車道＝自動車・バイク・バス」という単純な区分が変わる可能性があると感じている。そうなると、子どもの安全確保の幅をどうするかや、歩道の機能をどう考えるかといった点も含めて整理が必要になる。
- ・休憩スペースとしてのベンチも、道路の機能の一部として考えられる可能性がある。
- ・今後の交通環境の変化も見据えながら、具体的な要望を出してもらえれば検討していきたいと思う。

7 参加者【民生委員との連携について】

- ・民生委員との連携について、どのように考えているのか聞きたい。

➡ 市長

- ・民生委員は、全ての地域に配置されているボランティアである。ただし、国や県、自治体としっかり紐づいている存在でもある。ある意味で「準公的な役割を担うボランティア」だと認識しており、私としても、重要な社会インフラだと考えている。
- ・現在は総合センターなどが、集会や活動の拠点として機能しているが、もし新しい施設が、地域福祉の拠点としてふさわしい、民生委員の活動拠点として重要だ、という声があれば、整備のあり方を考えていくこともあると思う。
- ・一方で、民生委員の活動は、市内全域をそれぞれの地区で支える形が基本だ。拠点があることは大事だが、最終的には各地域での活動が地域福祉を支えている。
- ・今後も民生委員の皆さんに活動いただきながら、その活動を支える拠点として最適な形を考えていきたい。

8 参加者【新しい福祉拠点と「高齢者の再スタート支援」の提案について】

- ・私は西谷在住だが、新しい福祉拠点について、市長が言う「自立支援を後押しする」という考え方には大賛成だ。利用者は大きく分けて、高齢者、障害のある方になると思うが、特に高齢者の視点が重要だと思う。
- ・定年退職後に再スタートを迎える方の中には、うまく次に踏み出せないという方が多いと感じているので、リカレント教育、リスクリングなど、もう一度スタートできる支援がとても大事だと思う。
- ・拠点施設ができた後の「運営方法」が重要だと思うが、福祉という名前がつくと、福祉部門だけが所管する形になると思う。
- ・リカレント教育やリスクリングは福祉だけではカバーできないと思うので、庁内のさまざまな部署が連携できる仕組みや、硬直化しない柔軟な運営体制が必要だと思う。
- ・立ち上げ段階から、他都市の事例も参考にしながら、幅広い分野の知見を取り入れるべきだと思う。例えば、しあわせの村のシルバーカレッジのような取り組みも参考になるのではないかな。

➡ 市長

- ・65歳でもまだまだ元気な方が多く、個人差も非常に大きいと思う。
- ・実は、ボランティアにつながるプログラムや、地域活動への入り口づくりなどは既にある。例えば、退職後に地域を学び、活動につなげる講座などもあり、卒業生が地域で活躍している例もある。また、シルバー人材センターのような就労機会もある。
- ・現在、産業文化部を中心に、市全体の就労支援プログラムの整理を進めている。対象は、高齢者、障害者、ひとり親家庭、生活困窮世帯など多岐にわたっている。
- ・ただし、部署間の連携が十分とは言えず、「出口＝仕事づくり」までつながっていないという課題があると認識している。
- ・今後は、スキル習得、定年前からの準備も含めて、体系的に考える必要があると思う。
- ・地域福祉は福祉部門だけで完結する話ではなく、全庁的に取り組む仕組みが必要だと感じている。推進体制についても、単なる所管任せではなく、しっかり進める体制を考えていきたいと思う。具体的な運営設計はこれからの検討課題だ。

9 参加者【市長の「熱い思い」は本当に伝わっているのか】

- ・市長の福祉に対する熱い思いはよく分かった。たくさん勉強もされていると思う。ただ、その思いが市民に十分には伝わっていないと感じている。
- ・まちづくり協議会や自治会がきちんと機能していれば、市長の思いは自然と地域に広がるはずだ。市は直接指揮はできないとしても、活性化を促す、働きかけるといった仕組みは考えるべきではないだろうか。
- ・もう一つ心配しているのは市役所内部で、市長の思いが、縦割りとと言われる各部局にまでしっかり浸透しているのか、そこが気になる。
- ・形だけ整えて終わるのではなく、組織全体で腹落ちするところまで徹底してほしい。

➡ 市長

- ・担当部局とは十分に思いを共有しているつもりだ。ただ、それが全庁的にどこまで浸透しているかは、これからの課題だと思う。
- ・むしろ、この福祉拠点づくりのプロセスそのものが、庁内全体に思いを広げる機会になればと考えている。市域全体に考え方を伝えていく必要があるので、そのためにも、まちづくり協議会、自治会との連携は重要だと認識している。
- ・自治会が存在しない地域もあり、簡単ではないが、地域の力を活かす工夫はしていきたい。
- ・拠点自体が「学びの場」になるのではないかと考えている。高齢者や障害のある方だけでなく、若い世代、障害のない方にも来てもらうことで、理解や啓発につながる可能性がある。
- ・建物を建てて終わりではないので、最後まで責任を持って進めていきたい。

10 参加者【自治会長や民生委員の対話ひろば参加について】

- ・この対話ひろばに、自治会長さんや民生委員さんにもっと来てほしいと思う。自治会連合会の会長さんは来られていても、各地区の自治会長さんが来ていなかったり、福祉に関わってきた方が参加されていなかったりする。
- ・地域がもっと仲良くなれないといけないと思うし、自治会長さんや民生委員さんにもこういう話を聞いてほしい。市役所からも自治会に一本電話して「明日こんな話をしますので来てください」と声をかけるくらいの熱意があってもいいのではないかな。

➡ 市長

- ・自治会長さんや民生委員さんにお声がけすることも一つの方法だ。ただ、長い目で見ると、「心地よく参加したい」と思って来てもらうことがとても大事だと思う。
- ・例えば、みんなで食事をしながら話す場は、とても有効だ。普段は来ない人でも、「ご飯を食べる」となると来る。
- ・障がいのある方が関わるレストランでも、「福祉だから」ではなく、「美味しいから」「日替わりだから」と自然に人が来ている。
- ・対話ひろばも、実は様々な形で参加を呼びかけているが、もう一步どう工夫できるかを担当と考えている。
- ・福祉拠点も、普段あまり関心のなかった人が「ちょっと行ってみようかな」と思える場所にしたい。例えば、西公民館で若い方から「駄菓子屋があるといい」と意見があった。「福祉の施設」と聞くとハードルが高いけれど、「駄菓子屋に行こう」となると来やすい、そういう工夫も大事だと思う。

11 参加者【自治会長の高い意識について】

- ・自治会連合会としては、皆さんに声をかけて参加を促している。ただ、現役でお仕事をされていたり、ボランティア活動をされていたりして、なかなか参加できない方も多
い。自治会長の皆さんは非常に高い意識を持って地域のために頑張っている。
- ・今回の拠点施設のテーマには、「地域共生」「交流の場」「市民が活躍できる場」と書か
れている。それはまさに西谷にすでにあるものではないだろうか。自治体の中に交流の
場があり、市民が活躍できるグラウンドもある。
- ・建物としての施設だけでなく、西谷という地域全体を福祉の拠点と考えて進めていた
だけなら嬉しい。
- ・私自身も高齢になってきたが、「老人」と言われるのはまだ少し抵抗があり、まだ何か
できるのではないかと、という思いを持っている方は市内にたくさんいると思うので、リ
カレント教育や訓練の場があれば、多くの方が活躍できると思う。
- ・そういう場をきっかけに西谷に人が入ってきて、地域共生が進んでいけば嬉しい。

➡ 市長

- ・おっしゃる通り、西谷を“場”として活用していくという視点は大切だと思う。
- ・実際に、西谷には外から人が来て、ミーティングやランチなどを行う取り組みもある
し、とても素敵な動きだと感じている。
- ・子育て世代にも関わってもらいながら、関係人口を増やしていくことも重要。
- ・農業についても、高付加価値型の取り組みを進めているが、そこでも高齢者の方が活躍
できる場はあると思う。
- ・活動の場があり、集まって話ができて、西谷の自然や資源を活かせる環境があるので、そ
こを一つの魅力としてしっかり考えていきたいと思う。

12 参加者【対話ひろばの開催日時について】

- ・こういう交流の機会を設けていただけるのなら、現役で働いている自治会長さんや若い
方も参加しやすい日時を考えてほしい。
- ・私はたまたま休みだったので参加できましたが、仕事をされている方は平日日中は難
しいと思う。そうすると土日開催になると思うが、市役所の皆さんの負担もあるため、
いろいろ議論があるとは思う。それでも、いろんな日時に計画していただいて、今日来
られなかった人も来られるような工夫があればいいなと思う。

➡ 市長

- ・時間帯によって参加しやすい方はそれぞれ違う。平日日中がいい方もいれば、土日が
いい方、夕方がいい方もいらっしゃるため、この対話ひろばは、1つのテーマにつき4回
シリーズで実施しており、開催場所も毎回変えている。
- ・東・西・中央などエリアを分けて実施しており、さらに、時間帯や曜日も毎回変えて
いる。土日・平日・昼・夕方などを組み合わせているが、すべての方を網羅するのは難し
いため、少しずつ時間帯や場所を変えながら、できるだけ多様な参加機会をつくるよ
うにしている。ご意見はしっかり受け止めたい。

13 参加者【公共施設活用の応募条件について】

- ・公共施設の活用や変革の話だが、応募条件が法人でないと難しいケースがある。
- ・地域でつながる取り組みを考えると、個人で提案したい人もいると思うが、入り口が閉ざされているように感じる。
- ・東京や大阪の大手企業が入れば安心という考え方も分かるが、結局お金は外に流れてしまう。それなら、宝塚市に一定の条件を満たす人が参加できるような仕組みを考えられないだろうか。
- ・情報発信についてだが、市役所の若手職員が出演している you tube は画期的だと思う。ただ、動画は通勤中に見るのが難しい。ポッドキャストであれば、耳だけで聞ける。

➡ 市長

- ・個人で参加できる仕組みについては、確認していきたいと思う。
- ・これまで「法人＝安心」という考え方があったが、時代も変わってきている。大きい法人だから安心とは限らない、個人事業主でも十分に実績を出している方はたくさんいるので、法人か個人かという条件が本当に必要なのか、検証していきたいと思う。
- ・地域事業者を優遇することについては、地域経済の観点では意味があるが、入札制度や法律上の制約もある。地域限定にすることは簡単ではなく、公平性や癒着といった問題にもつながる可能性があるため、慎重な検討が必要だ。
- ・実は、ポッドキャストはやりたいと思う。音声コンテンツ自体はあるので、編集すれば可能だと思う。ご意見として受け止めて、検討していきたい。
- ・若手職員が出演している動画は評判も良く、市役所内でも前向きな動きが出てきている。市民の皆さんにも応援していただければ、さらに発信が広がっていくと思う。